

目的：D.I.T業務改善

分野	ねらい		推奨対象者
ネットワーク	■ ネットワーク活用を学びたい	<div>DX ワイヤレス環境に必要となる無線LANとセキュリティ</div> <div>DX 社内ネットワークに役立つ管理手法</div>	ITを活用した業務改善に取り組む方
データ活用	■ 表計算ソフトの活用を学びたい	<div>DX 表計算ソフトを活用した業務改善</div> <div>DX 業務に役立つ表計算ソフトの関数活用</div> <div>表計算ソフトを活用した効果的なデータの可視化</div> <div>DX 効率よく分析するためのデータ集計</div> <div>DX ピボットテーブルを活用したデータ分析</div> <div>DX 品質管理に役立つグラフ活用</div> <div>DX 表計算ソフトを活用した統計データ解析</div> <div>DX 表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化</div>	
		<div>DX データベースを活用したデータ処理(基本編)</div> <div>DX データベースを活用したデータ処理(応用編)</div> <div>DX データベースを活用した高度なデータ処理</div>	
		<div>DX 業務効率を向上させるワープロソフト活用</div>	
	■ プレゼンテーションソフト活用を学びたい	<div>DX 相手に伝わるプレゼン資料作成</div>	
		<div>集客につなげるホームページ作成</div> <div>DX SNSを活用した情報発信</div> <div>DX オンラインプレゼンテーション技術</div>	
	■ インターネット活用を学びたい		ITを活用した情報発信に取り組む方
倫理・セキュリティ	■ セキュリティ対策を学びたい	<div>DX 脅威情報とセキュリティ対策</div> <div>DX 情報漏えいの原因と対応・対策</div> <div>DX テレワークに対応したセキュリティ対策</div>	ITにおけるセキュリティ対策に取り組む方

初任層対象研修のご案内

以下の訓練コースは、新入社員や若手社員におすすめする研修コースの一例です。

○ 効率的な時間管理による仕事の進め方を学ばせたい

■ 業務効率向上のための時間管理（B横断的課題/組織マネジメント/組織力強化）

客観的に仕事の進め方を分析することで、仕事が進まない原因を取り除き、業務の効率化・スピード化を促進できる仕組みづくりを行うための知識を習得します。

○ 品質管理の基本を学ばせたい

■ 品質管理基本（A生産・業務プロセスの改善/品質保証・管理/品質保証・管理手法）

品質管理の基本を理解し、QC7つ道具の活用法を習得します。

○ 職場における安全衛生活動の基本を学ばせたい

■ 事故をなくす安全衛生活動（B横断的課題/組織マネジメント/リスクマネジメント）

安全衛生の要点や企業における安全衛生活動、点検手法についての知識を習得します。

中堅層・管理者対象研修のご案内

以下の訓練コースは、中堅社員または管理者の方におすすめする研修コースの一例です。

○ 目標達成するための管理者としての能力を向上したい

■ 組織力強化のための管理（B横断的課題/組織マネジメント/組織力強化）

組織における管理者の役割及び行動法や、組織力の強化のための具体的な手法を理解し、組織目標の達成に向けた強い組織の構築手法を習得します。

○ 工程管理を活用して、納期管理を見直したい

■ 生産計画と工程管理（A生産・業務プロセスの改善/生産管理/工程管理）

工程管理の着眼点、生産計画・統制への柔軟な取り組み方について理解し、自社の納期管理を見直していくためのポイントを習得します。

○ 社内外における個人情報の保護を徹底したい

■ 個人情報保護と情報管理（B横断的課題/組織マネジメント/リスクマネジメント）

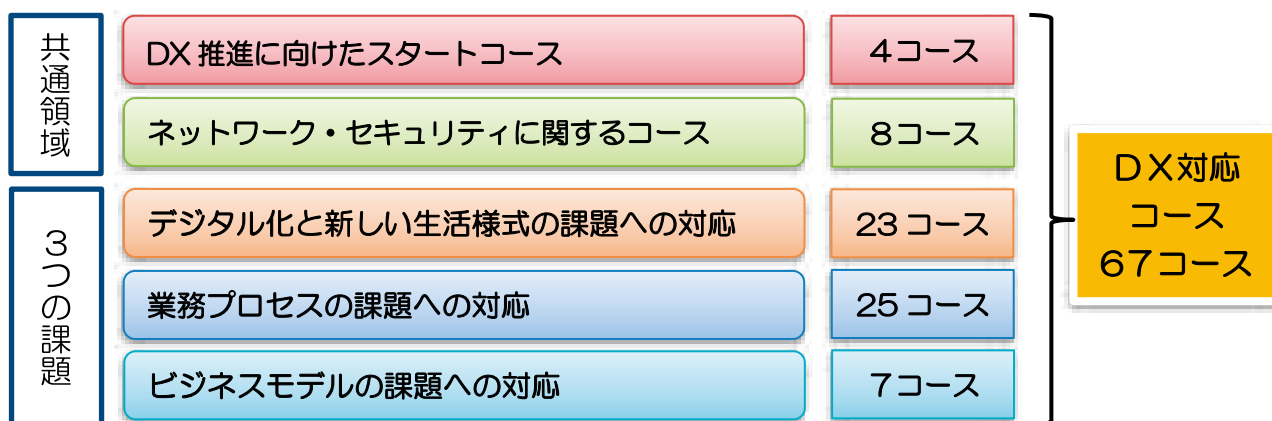
企業における個人情報の活用と保護の両立をめざして、個人情報保護法について理解し、セキュリティ技術に関する知識・技能を習得します。

DX対応コースのご案内

生産性向上支援訓練のカリキュラムモデルのうち、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に資する人材育成を支援する訓練コース（67コース）を「DX対応コース」として設定しています。

DX対応コースでは、訓練目的とは別に「デジタル化と新しい生活様式の課題」「業務プロセスの課題」「ビジネスモデルの課題」という3つの切り口からコースを整理し、さらに「ネットワーク・セキュリティに関するコース」、「DX推進に向けたスタートコース」を共通領域として設定しています。

なお、DX対応コースに該当する訓練コースには **DX** を付しています。



以下の訓練コースは、課題別のDX対応コースの一例です。

- DXの推進に必要な知識や事例を知りたい

DX推進に向けたスタートコース

■ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

（A生産・業務プロセスの改善/バックオフィス/新技術活用）

自社の業務変革を目指して、業務のシステム化に向け、自社のニーズに合致したシステムを企画できる知識を習得します。

- 自社業務に適切なITツールを選定したい

デジタル化と新しい生活様式の課題への対応

■ ITツールを活用した業務改善（A生産・業務プロセスの改善/バックオフィス/システム導入）

業務の省力化や効率化を目指して、ITツールを活用することで業務改善を実現するために、ITツールの特徴と種類を理解し、自社業務に適切なITツールを選定するための知識を習得します。

- 生産活動にスピードと柔軟性をもたせたい

業務プロセスの課題への対応

■ クラウド活用入門（A生産・業務プロセスの改善/バックオフィス/新技術活用）

クラウドに関する基本的な知識、サービス及び利用法を理解し、クラウドを活用した業務展開、企画提案の知識と技能を習得します。

1 カリキュラムの概要

職業能力開発総合大学校基盤整備センターが開発したカリキュラムモデルを基に、事業主等が抱える生産性向上に係る課題・目標などの人材育成ニーズに応じて、オーダーメイドでカスタマイズして訓練コースを設定します。

カリキュラムは、次に掲げる内容により構成しています。

- イ 基本要素 → 基本項目と演習を組み合わせたもの
 - ① 基本項目 → 事業主等が抱える人材育成上の課題・目標を解決・達成するために必要な基本知識
 - ② 演習 → 基本項目で得られる知識を効果的に習得するための演習
- ロ 応用・実践要素 → 基本要素を補完する応用的・実践的な知識の付与

2 カリキュラム策定の流れ

- (1) カリキュラムモデルの中から、人材育成上の課題解決や目標達成に合致するカリキュラムを選択します。
- (2) 選択したカリキュラムの基本要素について、全ての「基本項目」と「演習」を組み合わせ、「D I T業務改善」については4時間以上、それ以外については6時間以上の訓練時間を設定します。
 なお、基本項目に対応する「主な内容」と「演習」は、コースのねらいに沿った内容であれば（例）以外にも設定可能です。※生成AIをカリキュラムに組み込む場合は必須とする内容有。
- (3) 訓練時間が7時間以上であり、基本要素に関連する応用的・実践的な知識の習得を希望する場合は、総訓練時間の概ね3割程度を目安に「応用・実践要素」の設定が可能です。

3 カリキュラムの構成

6時間以下コースの構成

基本要素

(基本項目)

事業主等が抱える人材育成上の課題・目標などの人材育成ニーズを解決・達成するために必要な基本知識

(演習) 基本項目で得られる知識を効果的に習得するための演習

4～6h

7時間以上コースの構成

基本要素

(基本項目)

事業主等が抱える人材育成上の課題・目標などの人材育成ニーズを解決・達成するために必要な基本知識

(演習) 基本項目で得られる知識を効果的に習得するための演習

応用・実践要素

(学科)

基本要素に関する応用的・実践的な内容を学ぶために設定

(演習)

7～30h

事業主等が希望する場合、総訓練時間の概ね3割程度を目安に、応用・実践要素の時間を設定することが可能

048

ものづくりの仕事のしくみと生産性向上

人材育成上の課題・目標

- ・ QCD・SMの重要性に対して従業員の意識が低い
- ・ 非正規社員、パート従業員の知識の向上を図りたい、また、定着率を高めたい
- ・ 各部門間の連携を円滑、スムーズにしたい
- ・ ものづくりにおける業務改善の必要性について周知したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 製造業を取り巻く環境と各部門業務全体を理解する
- ・ ものづくりの全体の流れを理解する
- ・ ものづくり現場における課題・発見解決方法を理解する
- ・ ものづくりにおける業務改善に関する事例を知る

コースのねらい

製造業の業務の流れと各部門の役割について学び、製造業全体の基本的なしくみを理解するとともに、製造現場での仕事に対する考え方、自身の立場や責任を理解し、業務改善の考え方を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ ものづくりの仕事の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業を取り巻く環境 ・ 企業経営とは ・ 製造業全体のしくみ ・ 製造業における各部門の役割 ・ 製品のライフサイクル
	■ ものづくり現場の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業のQCD・SM ・ 生産管理のしくみ ・ ものづくり現場の5S ・ 原価と利益
	■ ものづくりに関する業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善活動の基本 ・ 問題発見・解決 ・ 改善と気づき
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくり活動における問題発見と改善演習 ・ 工場内の各部門間の業務連携演習 ・ 担当業務における改善提案演習
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産管理とQCD・SM ・ 生産性改善の事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

- ※ 金額は、1名あたりの受講料です。
- ※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

初任層

関連コース

- A 生産管理
 - ・ 生産性分析と向上
 - ・ 生産現場の問題解決
 - ・ 生産性向上のための課題とラインバランシング
- B 組織マネジメント
 - ・ 成果を上げる業務改善

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

001

生産性分析と向上

人材育成上の課題・目標

- ・材料・部品・資材調達計画の作成ができるようにしたい
- ・中・長期的な生産計画の立案と策定ができる人材を育成したい
- ・作業・工程実績の分析ができる人材を育成したい
- ・作業改善を立案できる推進者を育成したい
- ・生産性を向上させるために情報を電子化して一括管理したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・生産設計を理解する
- ・自社での現状分析方法を理解する
- ・生産活動の問題点発見と改善方法を理解する
- ・生産改善の事例を知る
- ・各種データの電子化と管理方法を理解する

コースのねらい

生産方式を理解し、生産性向上のために現状分析と改善活動ができる知識、技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 生産方式と生産性	<ul style="list-style-type: none"> ・生産方式の種類 ・人、もの、時間の管理 ・生産計画と生産統制
	■ 現状分析と効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・現状分析 ・生産設計 ・レイアウト
	■ 改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ・改善活動の基本 ・問題点発見
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・生産設計演習 ・生産活動の問題点発見と改善演習 ・自社での現状分析演習
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・ECRSによる業務改善 ・生産シミュレーション技術 ・生産改善の事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング
 - ・生産計画と工程管理
- B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

002

生産現場の問題解決

人材育成上の課題・目標

- ・生産計画を作成できる人材を育成したい
- ・生産出荷目標設定や需要予測の精度を上げたい
- ・生産性を向上するための改善策を知りたい
- ・作業・工程実績の分析手法を学びたい
- ・作業改善を立案できる推進者を育成したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・生産計画作成と問題を把握する
- ・現場作業のムリやムダ取り手法を理解する
- ・課題を解決して生産現場を改善する
- ・作業をシミュレーションして分析する
- ・生産現場の改善事例を知る

コースのねらい

生産管理を理解し、生産現場の問題を発見、解決できる知識、技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 生産活動の基本	・生産活動の基本 ・生産現場の問題とは
	■ 現状分析とムダの発見	・ムダとは何か ・現状分析 ・ムダの発見
	■ 生産現場の改善	・改善の手順 ・効果的な改善のためのポイント
	演習（例）	・課題を通じた生産現場の改善演習 ・現場のムダ排除のための改善グループ演習 ・自職場における現状分析とムダの発見
応用・実践要素（例）		・作業分析のシミュレーション ・生産活動業務改善ソリューションの紹介 ・生産現場の改善事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
- ・生産性分析と向上
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング
 - ・生産計画と工程管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

003

生産性向上のための課題とラインバランシング

人材育成上の課題・目標

- ・統括的な生産計画を立案できる人材を育成したい
- ・生産量予測ができ、安定的な生産性向上を目指したい
- ・新製品、新設備の初期管理体制作りができる人材を育成したい
- ・製造ラインの問題解決に的確な指示が行えるようにしたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・生産スケジュール計画を作成する
- ・生産管理システムの導入とその効果を理解する
- ・生産スケジュールに基づき工程計画を作成する
- ・自社における生産現場の課題を把握し、解決策を策定する

コースのねらい

生産システムを活用した生産性最大化や納期遵守など、生産性向上・最適化をめざして、生産計画、加工計画、作業計画などを実行するためのものづくり生産工程改善等の手法と潜在化している現状の生産システムの問題点を把握し改善・検証する手法を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 生産現場の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場の課題 ・生産性向上のための課題
	■ 生産スケジュールと工程計画	<ul style="list-style-type: none"> ・日程計画と投入規則 ・ガントチャートについて ・スケジューリングの分類 ・生産コントロールについて ・生産方式に応じたラインバランシングについて
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた生産スケジュール計画の作成 ・参加企業の生産現場の課題共有 ・自社における生産現場における演習と検証
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理システムの導入とその効果 ・ICタグを活用した在庫管理と分析手法 ・生産システムシミュレーション

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
- ・生産性分析と向上
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産計画と工程管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

004

生産計画と工程管理

人材育成上の課題・目標

- ・生産システムを改善したい
- ・生産システムの策定ができる人材を育成したい
- ・営業、設計、調達、生産情報の統一した管理体制を実現したい
- ・リードタイム短縮のための各部門の課題を解決したい
- ・納期短縮のための生産システムなどのノウハウを知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・生産計画の立て方と実現対策を理解する
- ・生産計画の作成方法を理解する
- ・リードタイム短縮に向けた計画を検討する
- ・生産管理課題の改善策を検討する
- ・ビッグデータによる生産管理の最新動向を知る

コースのねらい

多品種少量化や短納期化など、顧客の多様なニーズに適した生産計画の策定を目指して、工程管理に必要な視点、生産計画・統制への柔軟な取り組み方について理解し、自社の納期管理を見直していくためのポイントを習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 工程管理の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・工程管理の目的 ・工程管理の手法 ・工程管理表の種類 ・工程管理の実施のポイント
	■ 生産計画の立案と作成手順	<ul style="list-style-type: none"> ・受注生産と見込み生産 ・需要予測に基づく生産計画 ・生産能力に合わせた負荷計画 ・在庫管理と生産リードタイムの関係 ・納期遅延への対応策の検討 ・多品種少量生産の課題
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・生産計画の立案の課題演習 ・生産ラインの遅れにつながる問題の洗い出し ・生産管理課題改善策の検討
	応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理システムの導入 ・ビッグデータによる生産管理の最新動向 ・MES（製造実行システム）の動向

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推奨対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
- ・生産性分析と向上
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

005

サービス業における I E 活用

人材育成上の課題・目標

- ・サービス現場を改善して、収益率を上げたいが方法がわからない
- ・バックヤードでのロス・ムダに着目して作業効率を高めたい
- ・自立した改善活動ができる基礎を築きたい
- ・品質及び業務管理の社内標準化を図りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・サービス現場の改善方法を理解する
- ・業務の現状分析によりノウハウを見える化する
- ・製造業などで使用している作業分解表を活用する
- ・I E 活用による改善活動計画案を作成する

コースのねらい

サービス現場における I E (Industrial Engineering) に関する管理についての知識と技能を習得する。

カリキュラム (例)

基本要素	基本項目	主な内容 (例)
	■ サービス業における改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ・改善活動の必要性 ・サービス現場における生産性 ・改善活動の到達目標
	■ サービスの現場改善の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス改善の手順 ・I E による作業分析 ・バックヤードの改善視点 ・作業プロセスと現場環境改善
	■ 運営責任者のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・運営責任者のマネジメント ・従業員の意識と責任者の行動 ・生産性改善環境の構築
	演習 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた現場環境改善演習 ・事例を用いた I E による作業分析演習 ・I E 活用による改善活動計画案の作成
	応用・実践要素 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ・I E 7 つ道具 ・業務改善と I o T との連携事例 ・業務の現状分析によるノウハウなどの見える化

日程設定と受講料 (例)

- (1) 1 日 (6 時間) コース
3,300 円 (税込)
- (2) 2 日間 (12 時間) コース
5,500 円 (税込)

※ 金額は、1 名あたりの受講料です。
※ 6 ～ 30 時間の間で設定可能です。

推奨対象者

管理者層

関連コース

- A 流通・物流
- ・卸売業・サービス業の販売戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることが可能です。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。